

# 2007年4月号 目次

## 感染症発生動向調査【感染症・疫学情報課 検査研究課】

感染症発生動向調査 3月 . . . . .	1
感染症発生動向調査における病原体検査 3月 . . . . .	4
感染症法改正について(その3) . . . . .	5

## 検査結果【検査研究課】

由来別病原菌検出状況 3月 . . . . .	7
医動物検査 3月 . . . . .	8
食品等の苦情品検査(その2) . . . . .	9

## トピックス【感染症・疫学情報課 検査研究課】

衛生研究所 WEB ページ情報(その37) . . . . .	15
---------------------------------	----

## 情報提供【感染症・疫学情報課 検査研究課】

第14回 衛生研究所展 . . . . .	17
-----------------------	----

# 感染症発生動向調査委員会報告

## 今月のトピックス

インフルエンザは、注意報レベルを超えて増加を続けたが、第12週はやや減少  
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、高いレベルで推移し、引き続き注意が必要  
全国では、マイコプラズマ肺炎が昨年に引き続き多い

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:84か所、内科定点:55か所、眼科定点:15か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計183か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計139定点から報告されます。

平成19年2月19日から平成19年3月25日まで(平成19年第8週から第12週まで。ただし、性感染症については平成19年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、感染症委員会において行いましたのでお知らせします。

### <インフルエンザ>

横浜市では、今シーズンは、過去5シーズンと比べて一番遅い第4週から、流行期に入りました。その後増加を続け、第8週には定点あたり14.3と、注意報レベルを超え、第11週は定点あたり26.80になりました。第12週は23.87とやや減少し、そろそろピークをこえたようにも思われます。ただ、過去10年でもこの時期に2ケタだったことはなく、まだ非常に高い値なので、引き続き注意が必要です。区別では、都筑49.6、磯子37.0、港北32.1と3区で警報レベルを超え、20以上が8区、10以上が6区と、中区以外の17区で注意報レベルを超えており、市全体で流行しています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は27.55、川崎市は28.65と横浜より高く、東京都は22.08と低い値です。全国では第3週の流行開始以降増加が続き、第11週は定点あたり32.94でした。

横浜市内の病原体定点の検体からの、横浜市衛生研究所における第13週までのウイルス分離・検出数は、Aソ連型7、A香港型49、B型50となっています。全国の地方衛生研究所からの報告によれば、3月29日現在、Aソ連型177、A香港型1215、B型897です。横浜市では今年より、定点医療機関からの届出様式にインフルエンザ迅速診断キット報告欄を設け、任意でご記入いただいております。現在までの合計数を比べると、A型:B型が約1.15:1で、当所での分離・検出の合計数の比1.12:1に近い値になっていました。

また市内での集団かぜによる学級閉鎖については、3月15日現在で幼稚園1、小学校10、中学校3、養護学校1の累計15施設となっています。内訳は、学年閉鎖が2学年8学級、学級閉鎖が23学級です。それ以降報告はありません。

### <RSウイルス感染症>

12月はかなり多くの報告がありましたが、今年に入って減少し、2月以降は、第5週の11人、第9週の8人が目立った他は、1人前後しか報告がなく、流行は終息したと思われれます。全国でも、第5週以降減少を続けています。

### 平成19年 週 月日対照表

第 8週	2月19～25日
第 9週	2月26～3月4日
第10週	3月 5～11日
第11週	3月12～18日
第12週	3月19～25日

#### <咽頭結膜熱>

横浜市では、昨年と同様、例年よりやや高めで横ばいが続いており、第12週は定点あたり0.23でした。区別では、2.3と磯子区での発生が目立ちました。川崎市は、1.0でかなり高い値です。昨年、立ち上がり及早く大きな流行があったので、今後の動向には注意が必要と思われます。

#### < A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 >

第3週に急に増加し、その後も高いレベルで増減を繰り返し、第10週には定点あたり2.68、第12週は2.13でした。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.45、川崎市は3.06と、どちらも横浜市より高い値です。区別では、都筑区での発生が目立ち、第8週以降警報レベルの4以上が続いており、第12週は9.5でした。他には、磯子5.3、泉4.7が高くなっています。全国でも昨年同様高い値が続いており、引き続き注意が必要です。

#### < 感染性胃腸炎 >

昨年末は、大きく流行しましたが、今年に入ってから落ち着いた、例年通りの発生となっています。第12週は定点あたり5.26と、神奈川県(横浜、川崎を除く)、川崎市、東京都より低い値になっています。定点あたりの値が10以上の区も見られません。

#### < 伝染性紅斑 >

例年に比べて高めの値が続いており、第12週は0.45と、過去の同時期と比べると一番高い値です。全国では、増減はあるものの、過去5年間の同時期と比較してかなり高い値が続いていて、第11週は定点あたり0.63でしたので、今後の動向には注意が必要です。

#### < マイコプラズマ肺炎 >

3か所の基幹定点医療機関からの報告に基づいているため、総数で比較しました。昨年はかなり多く、年間で92人の報告がありました。今年に入ってから、第2週に1人、第3、4、7週にそれぞれ3人、第8週に2人の報告がありました。全国での報告は、増減はあるものの、過去5年間と比較してかなり多い状態が続いており、引き続き今後の動向に注意が必要と思われます。

#### < 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の11定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の15定点からの報告に基づいて集計されています。

2月は、4つの疾患とも、1月より減少しています。性器クラミジア感染症と性器ヘルペス感染症では、男性の報告数が女性の約2倍と多い点が目立ちました。

いわゆる「エイズ予防指針」については、平成18年3月に改正され4月から適用されています。少し遅れて、「性感染症に関する特定感染症予防指針」についても一部改正され、平成18年11月30日より適用されました。2006年8月の本報告でも、改正案についてのパブリックコメント募集を取り上げています。概要としては、以下の点が注目されます。

- ・前文に若年層を中心とした予防対策を重点的に推進していく必要があるとしたこと
- ・発生動向が的確に反映できるよう、国は指定届出機関の指定の基準の見直しに努め、都道府県は関係機関と連携し、地域によって偏りがないように留意して指定届出基幹を指定するとしたこと
- ・コンドームは、性感染症の予防に対する確実かつ基本的な効果を有するものとし、産婦人科、泌尿器科等の医療機関において、性感染症に係る受診の機会を捉え、コンドームの使用による性感染症の予防について啓発していく必要があるとしたこと
- ・性感染症として最も罹患の可能性の高い性器クラミジア感染症は、男性においても症状が軽微であることが多いため、そのまん延防止に向けた啓発が必要であるとしたこと
- ・性感染症の無症状病原体保有者の推移に関する研究、地域を限定した性感染症の全数調査等の、研究についても重要であるとしたこと

#### 【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

#### 衛生研究所から

##### <ウイルス検査>

2007年3月に病原体定点から搬入された検体は67件(小児科定点から鼻咽頭ぬぐい液46検体、内科定点から鼻咽頭ぬぐい液15検体、基幹定点から髄液4検体、便、鼻咽頭ぬぐい液各1検体)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎32人、発熱のみ9人、関節痛・筋肉痛2人、腹痛、嘔吐、倦怠感各1人、内科定点は気道炎8人、関節痛・筋肉痛4人、発熱のみ、咳、無症状各1人、基幹定点はインフルエンザ脳症・脳症疑い3人、発熱1人でした。

4月10日現在のウイルス分離状況は、小児科定点からは28人からインフルエンザウイルスB型、11人からインフルエンザウイルスAH3型、1人からインフルエンザウイルスAH1型、内科定点からはそれぞれ5人からインフルエンザウイルスB型およびAH3型、1人からインフルエンザウイルスAH1型が分離されています。また、1人(関節痛・筋肉痛)からAdenoウイルスが分離されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

##### <細菌検査>(検査結果の詳細は、4ページに掲載されています。)

3月の感染性胃腸炎関係の受付は7菌株で腸管病原性大腸菌と毒素原性大腸菌が各1件検出されました。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は2件でA群溶血性レンサ球菌とB群溶血性レンサ球菌が各1件検出されました。

# 感染症発生動向調査における病原体検査

感染性胃腸炎

2007年3月

検査年月	3月		2007年1～3月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	0	7	0	27
菌種名				
サルモネラ				
腸管病原性大腸菌		1		2
毒素原性大腸菌		1		1
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター				
不検出	0	5	0	24

呼吸器感染症等

2007年3月

検査年月	3月		2007年1～3月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	2	0	6	1
菌種名				
A群溶血性レンサ球菌				
T3				
T4	1		1	
T6			1	
T11				
T12			1	
T13				
T28				
T 型別不能				
B群溶血性レンサ球菌	1		1	
G群溶血性レンサ球菌				
インフルエンザ菌				
パラインフルエンザ菌				
黄色ブドウ球菌				
髄膜炎菌				1
不検出	0	0	2	0

【 細菌担当 】

## 感染症法改正について(その3)

2006年12月に感染症法が改正され、2007年4月より新感染症法が施行されています(ただし、病原体等の所持等を規制する制度は2007年6月施行)。それに伴い、感染症発生動向調査事業実施要綱も変更されました。

今回は、感染症発生動向調査事業実施要綱の対象感染症に新たに追加された「厚生労働省令で定める疑似症」と横浜市感染症発生動向調査事業について解説します。

これらの内容は、衛生研究所ホームページでも情報提供していますのでご覧ください。

・感染症発生動向調査事業の概要について

([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/tebiki2/systemgaiyo.htm](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/tebiki2/systemgaiyo.htm))

・改正感染症に基づく感染症届出の手引き

([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/tebiki2/todo.htm](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/tebiki2/todo.htm))

### 感染症発生動向調査とは

日本における感染症のサーベイランスシステムの1つであり、平成11年(1999年)4月から施行されている「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下感染症法)」の大きな柱として、感染症対策の基本となるものです。

感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を的確に提供・公開することとなっています。

実施主体は、国、都道府県及び保健所を設置する市(特別区を含む)と定められています。

感染症発生動向調査の対象感染症には、全数把握感染症(一類から五類感染症)、指定感染症(インフルエンザ(H5N1))、定点把握感染症があります。なお、指定感染症(インフルエンザ(H5N1))については、2006年11月より、オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象になっています。

そして、今回の改正により、新たに「厚生労働省令で定める疑似症」が追加になりました。

厚生労働省令で定める疑似症とは、1及び2の症状を示すものです。

1 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)

例えば新型インフルエンザ等の感染症の発生を想定して、原因不明の重症の感染性呼吸器疾患の発生動向を把握するためのもので、当該患者の初期症状、主症状その他の状態を総合的に勘案して、届出を行う必要があります。

このため「呼吸器症状」とは、入院を要する程度に重症であり、呼吸困難の状態等を指します。

2 発熱及び発しん又は水疱

原因不明の感染性皮膚疾患等の発生動向を把握するためのもので、当該患者の初期症状、主症状その他の状態を総合的に勘案して、届出を行う必要があります。

なお、詳細は通知等をご参照ください。

次に、対象感染症を診断した医師からの届出に基づいて、発生状況を分析・提供する目的で行っている横浜市感染症発生動向調査事業の概要を示します。

### 1.システムの概要

感染症法のもとでは、国内の感染症の発生動向を知るために、全国の感染症の発生状況を国立感染症研究所感染症情報センター(以下中央感染症情報センター)に集めて分析することになっています。各地方の感染症の発生状況は、地方感染症情報センターが収集して中央感染症情報センターに送ることになります。

横浜市では、横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターが設置されており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、中央感染症情報センターに報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとなっています。

横浜市内において収集された患者情報及び病原体情報については、健康福祉局健康安全課及び衛生研究所感染症・疫学情報課が事務局となり、感染症発生動向調査委員会(感染症委員会)を月1回(最終木曜日)開催し、横浜市の感染症の発生状況として分析しています。そして、感染症発生動向調査委員会報告で五類定点把握疾患についてコメントしています(本誌p1~2参照)。

感染症委員会は、疫学等の専門家、医師会の代表、福祉保健センター及び衛生研究所の代表等をもって構成されています。感染症委員会の分析結果や感染症委員会報告等の発行物は、衛生研究所感染症・疫学情報課が中心となってまとめ、定点医療機関、医師会、関係医療機関、福祉保健センター等に配布しています。また、市民や医療機関を対象に、横浜市衛生研究所のホームページ等を通じて情報提供をしています。

患者情報については、感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)が、横浜市全体のデータを取りまとめて国の中央感染症情報センターへ報告しています。

## 横浜市病原体調査

感染症発生動向調査事業の一環として、病原体定点で採取された検体を用いて、衛生研究所で病原体の検索を行っています。市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

病原体定点からの検査検体およびその他の病原体情報については、衛生研究所検査研究課微生物部門が回収し、国の中央感染症情報センターに報告しています。また、病原体定点からの検体の検査結果については、病原体定点に直接通知しています。そして、病原体定点からの情報として報告しています(本誌p3参照)。

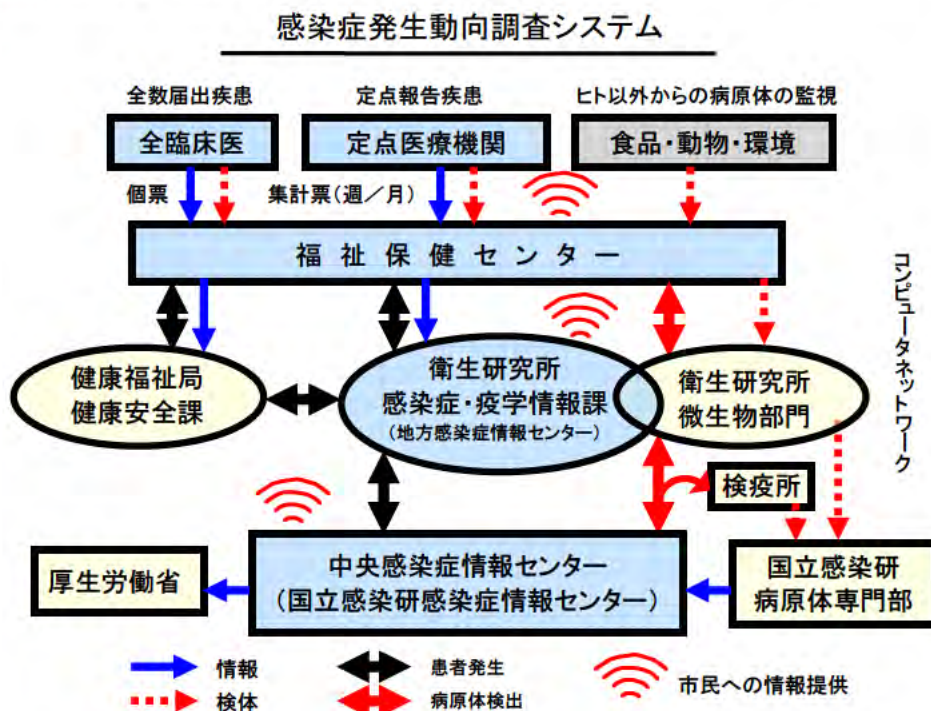
## 2. 情報の流れ(図)

対象感染症を診断した医師は、所定の様式を用いて、医療機関を管轄する福祉保健センターに届出を行います。

届出受理センターは、内容を確認し、健康福祉局健康安全課と衛生研究所感染症・疫学情報課へ届出様式を送付します。

感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)が、国の中央感染症情報センターへ報告します。

収集された情報は、横浜市感染症発生動向調査委員会などで分析し、衛生研究所ホームページ等を通じて速やかに関係機関等に提供・公開されます。



<参考>

感染症法改正について (検査情報月報 2月号)

感染症法改正について(その2) (検査情報月報 3月号)

【 感染症・疫学情報課 】

# 由来別病原菌検出状況

2007年3月

菌種名	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	3月	1-3月	3月	1-3月	3月	1-3月
コレラ O-1						
O-1以外				2		
赤痢菌 A						
B						
C						
D		1				
その他		1				
チフス菌						
パラチフス菌						
その他のサルモネラ						
O4群				1		
O7群						
O8群						
O9群			1	1		
O3,10群						
その他						
腸管病原性大腸菌	1	2				
腸管毒素原性大腸菌	1	6				
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌	1	4				
腸管凝集性大腸菌						
腸炎ピブリオ						
黄色ブドウ球菌	2 <sup>*1</sup>	8				
カンピロバクター						
ウェルシュ菌	14 <sup>*2</sup>	14			2 <sup>*2</sup>	2
A群溶血性レンサ球菌	1	3				
B群溶血性レンサ球菌	1	1				
G群溶血性レンサ球菌						
レジオネラ菌						
インフルエンザ菌						
その他		1				

\*1 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

\*2 Hobbs型別不能菌による集団食中毒事例

〔細菌担当〕



# 医動物検査

医動物室における平成19年3月の検査件数を表に示しました。

## 【行政検査】

ゴケグモ類の発生状況調査で、中区本牧ふ頭においてハイイロゴケグモの雌1個体、また鶴見区大黒ふ頭においてハイイロゴケグモの卵囊4個が採集されました。

## 【その他】

ライトトラップを用いた蚊類成虫を中心とした飛翔昆虫発生状況調査を中区、磯子区、旭区で行いました。

中区の飲食店で粘着式トラップによるチャバネゴキブリの生息調査を実施しました。

衛生監視員実務研修会(自主企画コース)「横浜市内における蚊類の発生状況調査」の一環として、緑区役所周辺で一年間行った雨水枡調査結果のまとめを行いました。

検査・試験項目		平成19年	平成18年4月～
		3月	平成19年3月
行	種類同定検査	0	33
政	ウエストナイル熱関係(蚊)検査	0	9,055
検	食品中異物検査	0	10
査	発生状況調査	5	212
	寄生虫検査	0	0
.....			
依	種類同定検査	0	9
頼	食品中異物検査	0	2
検	発生状況調査	0	300
査	殺虫剤効力試験	0	12
	寄生虫検査	0	0
.....			
	発生状況調査		
そ	ゴキブリ	5	55
の	飛翔昆虫	10	169
他	自主検査	0	1,412
	問い合わせ	8	92
合 計		28	11,361

【 医動物担当 】

## 食品等の苦情品検査(その2)

平成18年度下半期に、区福祉保健センターに届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために当所へ搬入された検体は、44件78検体でした。苦情の内容は様々ですが、異物混入が多くみられました。理化学検査を中心に行ったうち主な検体の検査結果は次のとおりです。

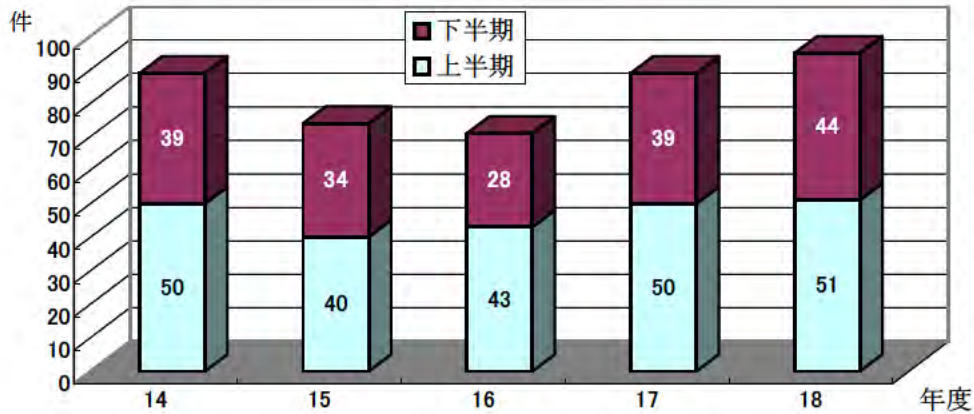



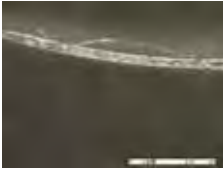









図 苦情品検査受付件数の推移

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
かやくうどん	ビニール片が入っていた。 	外観 赤外KBr法 結果	大きさ30×20mm、重さ21mg。無色透明のフィルム様の物質。 セルロースと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 セルロースフィルム(セロハン)の破片と推定された。その後の調査でリテナー成形かまぼこの外装に用いられたフィルムと判明した。
無着色たらこ	表面に毛らしきものが付いていた。 	外観 鏡検 結果	長さ35mm、太さ0.3mm、黒色の糸状の繊維。 一端はたらこの皮にしっかりと付着していた。糸状のものは、黒い斑点のある透明で筒状の形態をしていた。毛の特徴である毛表皮紋理(キューティクル)は認められなかった。 たらこの血管の一部と推定された。
フルーツ白玉の缶詰	小さな金属片が入っていた。 	外観 顕微鏡 マイクロナライザー 結果	大きさ9×0.3mm、8×0.4mm、各重さ1.2mg、1.1mg。 銀色の針金様の物質。 片面は金属光沢のある滑らかな銀色であり、反対面は削りとられたような凸凹した銀色であった。 滑らかな面は鉄の元素を、凸凹した面は鉄およびスズの元素を認めた。 缶詰の切かすと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
胚芽ご飯	ガラスの様なものが出てきた。 	外観 顕微鏡 赤外KBr法 結果	大きさ5×4×1mm、重さ43mg。透明なガラス様の固まり。 透明で、縁の部分は削られて角がなく、表面は多数の細かな削られた傷を認めた。 ガラスと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 ガラスの破片と推定された。ガラスの縁の部分や表面に細かな多数の削られた跡が認められた。(精米機などにより削られた。可能性がみられた。)
ビーフカレー	白い硬い固まりが出てきた。 	外観 燃焼試験 赤外KBr法 結果	長さ18mm、幅5mm、厚さ1mm、重さ74mg。片側に反った形状の淡黄色の薄片。 加熱すると、たんぱくを焼いた臭いを発して黒くなり、さらに加熱すると白色の灰分が残った。 異物および灰化したものは、骨および骨を灰化したものの赤外吸収スペクトルと類似していた。 骨の破片と推定された。
生クリームワッフル	毛の様なものがワッフルに付着していた。 	外観 顕微鏡 光学透過顕微鏡 走査型電子顕微鏡 結果	長さ40mm、太さ0.08～0.1mm、褐色の毛の一部がワッフル内に埋もれていた。 毛先から26mmがワッフル内に埋もれており、毛根から14mmが外に出ていた。 表面に細かな小皮紋理(キューティクル)を認めた。毛髄は細く、毛幅の1/5程度で、部分的に髄のない部分がみられた。 細かな横行波状の小皮紋理を認めた。断面は不正三角形を呈しており、毛髄は細かった。 人の毛と推定された。
豚肉のピーナッツがらめ	金属片が出てきた。 	外観 磁性 顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	幅0.50mm、厚さ0.025mm、銀色で幅が一定の3片の金属片。全体にカーブがみられた。 磁性を有する。 縦に走るスジがみられた。 鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。 鉄、クロム、ニッケルからなるステンレス製品と推定された。
ボトルドウォーター	数ミリ大の黒い異物を認めた。 	外観 沈殿物 結果(医動物での同定)	ペットボトル内に数ミリ大の黒い異物を認めた。 ペットボトル内に数ミリ大の黒い異物を認めた。 ヤマアリの有翅虫(雄成虫)と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
コロッケ	<p>ガラスまたはプラスチック片と思われる固まりがでてきた。</p> 	<p>外観</p> <p>マイクロスコープ</p> <p>赤外KBr法結果</p>	<p>大きさ3×1.5mm、重さ14mg。無色透明のガラス様の固まり。</p> <p>鋭利な角のない、透明度の良い固まりであった。</p> <p>石英と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。石英の破片と推定された。</p>
味噌汁	<p>食べていたら金属片が入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>溶解性</p> <p>磁性</p> <p>マイクロスコープ</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>結果</p>	<p>長さ約3.5mm、幅1.3mm、厚さ約1mm、重さ22mg。一部が銀色で、全体として銅色の固まり。</p> <p>硝酸に溶け、青色の溶液になった。</p> <p>磁性を認めない。</p> <p>銅色の金属様の固まりで、一部に銀色の皮膜が見られた。</p> <p>色部分は銅の元素を、銀色部分はニッケルとクロムの元素を認めた。</p> <p>銅にニッケルとクロムをメッキしたものの破片と推定された。</p>
肉じゃが	<p>異物感がして、吐き出したところ、異物を認めた。</p> 	<p>外観</p> <p>磁性</p> <p>マイクロスコープ</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>結果</p>	<p>長さ14mm、太さ0.30mm、重さ7.7mg。くすんだ灰色の針金様のもの。</p> <p>磁性を認める。</p> <p>均一の太さの金属で、断面は丸く、垂直に切断されていた。</p> <p>表面は亜鉛、内部は鉄の元素を認めた。</p> <p>針金の断片と推定された。</p>
焼き魚	<p>金属がでてきた。歯茎に刺さった。</p> 	<p>外観</p> <p>鏡検</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>結果</p>	<p>大きさ2×1mm、3×1mm、各重さ0.8mg、1.8mg。鉛色の金属様の固まり。</p> <p>片面は滑らかで、金属光沢をしており、反対面は鉛色で凹凸がみられた。</p> <p>アルミニウムの元素を認めた。</p> <p>金属アルミニウムの破片と推定された。</p>
生揚げと野菜のそぼろ煮	<p>食べていたら、口の中から金属が出てきた。</p> 	<p>外観</p> <p>磁性</p> <p>マイクロスコープ</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>対照品(金属たわし)</p> <p>結果</p>	<p>長さ15mm、幅0.5mm、厚さ0.02mm、重さ2.5mg。銀色のテープ状の金属片。</p> <p>わずかに磁性を認めた。</p> <p>表面に縦に走るスジがみられた。幅の一定で、両端が切れた金属片。</p> <p>鉄、ニッケル、クロムの元素を認めた。</p> <p>幅0.5mm、厚さ0.02mmの銀色のテープ状の金属。磁性を強く認めた。鉄とクロムの元素を認めた。</p> <p>ステンレス(鉄、ニッケル、クロム組成)の破片と推定された。対照品と組成が異なる。</p>

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ご飯	<p>ネズミの糞のようなものが3～4個、ご飯の中に入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>顕微鏡</p> <p>光学透過顕微鏡</p> <p>走査型電子顕微鏡</p> <p>結果</p>	<p>大きさ8×3×3mm、重さ32mg。黒色の俵状の固まり。</p> <p>水に浸し、崩した異物を観察したところ、毛、植物片、繊維などを認めた。</p> <p>ネズミの毛に類似した毛を認めた。</p> <p>ネズミの毛と同様な小皮紋理を認めた。</p> <p>ネズミの糞と推定された。</p>
給食	<p>黒い固まりが出てきた。</p> 	<p>外観</p> <p>溶解性</p> <p>燃焼性</p> <p>顕微鏡</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>大きさ8×4mm、厚さ2mm、重さ32mg。黒色の四角形の固まり。</p> <p>クロロホルムに溶ける。</p> <p>加熱すると溶け、黒煙を発生し燃え、スチレン臭がした。</p> <p>一部に欠けた面を認めた。側面は細かな凹凸処理が施されている。</p> <p>ポリスチレンを含む、アルキド樹脂の赤外吸収スペクトルに類似していた。</p> <p>ポリスチレン等のプラスチックの破片と推定された。</p>
惣菜	<p>小さな金属の固まりが入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>磁性</p> <p>顕微鏡</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>結果</p>	<p>大きさ1.2×0.8mm、重さ1.1mg。不定形の銀色の金属片。</p> <p>磁性を認めた。</p> <p>削られたような跡を認めた。</p> <p>鉄、ニッケル、クロムの元素を認めた。</p> <p>ステンレスの破片と推定された。</p>
チャーハン弁当	<p>毛のようなものが入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>赤外分光分析</p> <p>対照品</p> <p>結果</p>	<p>長さ55mm、太さ0.10mm、無色透明の繊維状の物質。</p> <p>ポリビニルアセテート(酢酸ビニル)に類似した赤外吸収スペクトルを認めた。</p> <p>弁当の裏底の接着剤：ポリビニルアセテート(酢酸ビニル)。</p> <p>酢酸ビニル樹脂の繊維状のものと推定された。弁当の裏底の接着剤と類似していた。</p>
ハンバーグ	<p>白い異物がハンバーグに入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>顕微鏡</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>1×3mm～4×7mm、厚さ0.05mm。白色で不定形の薄片。1個はハンバーグの表面から、4個は内部から認められた。</p> <p>いずれの薄片は縁がギザギサした状態に切断されていた。</p> <p>ポリプロピレンに類似した赤外吸収スペクトルを認めた。</p> <p>ポリプロピレンのシートと推定された。対照品の脱水シート(穴の開いた薄いシート)に類似していた。</p>

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
いくら・かに ちらし鮓	髪の毛の様なものが入っていた。  	外観 鏡検 赤外分光分析 結果	長さ61mm、太さ0.11mm、白色の毛様の物質。 長さ5.6～22mm、太さ0.10～0.16mm、数本の白色の毛髪様の物質。 片方の端に毛根が認められ、他方の先端は切断されていた。人毛に似た小皮紋理と髓を認めた。 透明で縦にスジが通っており、両端はちぎられた様になっていた。 異物及び異物を焼いたものは、当所で用意したカニの軟骨及び軟骨を焼いたものと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 長い異物は毛髪と推定された。 短い異物はカニの軟骨と推定された。
学校給食	プラスチックのフィルムが入っていた。 	外観 赤外分光分析 結果	長さ72mm、幅3～10mm、厚さ0.07mm、重さ53mg。透明なフィルム。一部、熱により、融けて収縮していた。 ポリエチレンと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレン樹脂製のフィルム片と推定された。
中華まんじゅう	極小さな金属片が付着していた。 	外観 顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	まんじゅうの表面に、大きさ0.1～0.3mmの銀色の金属様の小片を7個認めた。 削りとられた面を認めた。 アルミニウムの元素を認めた。 アルミニウム片と推定された。
生姜焼弁当	硬い固まりが入っていた。 	外観 磁性 顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	大きさ5mm×4mm×2mm、重さ0.2g。片面は銀色、反対面は黒いの金属様の硬い固まり。 磁性を認めない。 表面に細かなスジが多数平行にはしり、人工加工部分が認められた。 銀とスズの元素を認めた。 形状、組成より、歯の詰物と推定された。
中華風はるさめサラダ	ガラスのかけらが入っていた。 	外観 鏡検 赤外分光分析 結果	大きさ9mm×5mm、7mm×4mm、8mm×4mm、厚さすべて0.8mm、各重さ55mg、38mg、25mg。3片の無色透明で、不定形なガラス様の物質。 3片の割れた面は合わせり、一つとなった。 ガラスと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 ガラス片と推定された。
きつねうどん	糸状の異物が混入していた。 	外観 顕微鏡 赤外分光分析 結果	長さ36mm、太さ0.34mm、重さ2.3mg。緑色のプラスチック様の繊維。 波状をした太さがほぼ一定な繊維。 ポリプロピレンと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン製の繊維と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
食パン	トーストして食べようとしたら緑色した固まりが出てきた。 	外観 溶解性 顕微鏡 ヨウ素デンプン反応結果	大きさ10×10×5mm、重さ0.21g。食パン中に不定形で一部緑色した透明で白色の固まりを認められた。 固まりは水で白く懸濁し、多数の緑色の薄片および2個の茶色の小さな固まりを認められた。 緑色の薄片は当所で用意したアオリと形態的に類似していた。また、茶色の固まりはゴマに類似していた。 透明で白色部はヨウ素溶液で黒変した。 小麦粉にゴマとアオリが入った固まりと推定された。
牛の皮下脂肪	小さな鉄さび様の塊を多数認められた。 	外観 顕微鏡 溶解性 鉄の定性反応 マイクロアナライザー結果	大きさ1mm以下～3×2mm、重さ2mg以下。皮下脂肪上に多数の褐色から黒色の固まりを認める。 最も大きな固まりの片面は黒色で凸凹があり、反対面は赤褐色で一部に平面状の部分があった。 10%塩酸で発泡して溶けた。 チオシアン酸アンモニウムで赤色を呈する。 鉄、酸素および炭素の元素を認められた。 鉄さびと推定された。
ひじき煮	プラスチックの繊維様のものが出てきた。 	外観 赤外分光分析 結果	2本の青色のプラスチック様の繊維。両方とも長さ21mm、太さ0.2mm。 ポリエチレンと同様な赤外吸収スペクトルを認められた。 ポリエチレン製の繊維と推定された。
煮物	金属片が食品から出てきた。 	外観 磁性 顕微鏡 マイクロアナライザー結果	長さ29mm、幅0.2～0.5mm、重さ2.5mg。銀色のテープ状の物質。 磁性を認める。 片面は平面で他店走るスジを3～4本認め、反対面は凹凸を認める。縁にギザギザを認める。 鉄、クロム、ニッケルの元素を認める。 ステンレス製品のバリと推定された。
焼きうどん	プラスチックの様な硬い固まりが入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応結果	大きさ15mm×5mm×3mm、重さ0.18g。あめ色の不定形の硬い固まり。 小麦と同様なデンプン粒を認められた。 小麦と同様な赤外吸収スペクトルを認められた。 陽性。 小麦粉の固まり(うどんの乾燥したもの)と推定された。

【 食品添加物担当 】

## 衛生研究所WEBページ情報(その37)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を市民にわかりやすく提供しています。

今回は、2007年2月のアクセス件数、アクセス順位及び2007年3月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

### 1 利用状況

#### (1) アクセス件数 (2007年2月)

2007年2月の総アクセス数は、167,153件でした。主な内訳は、感染症63.7%、食品衛生13.8%、保健情報6.6%、生活環境衛生2.6%、検査情報月報4.6%でした。

#### (2) アクセス順位 (2007年2月)

2月は例年アクセス件数が少ない傾向にありますが、「マイコプラズマ肺炎について」は年間を通じてアクセス件数が多く、2007年2月のアクセス順位(表1)でも、第1位でした。

第2位は流行期である「ロタウイルスによる感染性胃腸炎について」でした。この時季におなかにくるかぜで、小児を中心に流行します。

第3位は「ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について」で、初めて上位10位以内に入りました。

これは、Hibワクチンが2007年1月に承認された影響と思われます。

表1 2007年2月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	9,758
2	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	6,140
3	ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	4,829
4	EBウイルスと伝染性単核症について	4,261
5	サイトメガロウイルス感染症について	3,255
6	RSウイルスによる気道感染症およびパリピズマブ(Palivizumab)について	3,163
7	性器クラミジア感染症について	3,002
8	トキソプラズマ症について	2,935
9	MDMA(通称:エクスタシー)について	2,397
10	大麻(マリファナ)について	2,376

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課



(3) 電子メールによる問い合わせ (2007年3月)

2007年3月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、7件でした(表2)。

表2 2007年3月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
食品添加物について	1	衛生研究所
かゆみについて	1	衛生研究所
トキソプラズマ症について	1	衛生研究所
紫外線について	1	衛生研究所
モキシデクチンについて	1	衛生研究所
ブルセラ症について	1	衛生研究所
マイコプラズマ肺炎について	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2007年3月)

2007年3月に追加・更新した主な記事は、3件でした(表3)。

表3 2007年3月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
3月 8日	よくある苦情事例集 <sup>*1</sup>	更新
3月14日	ブルセラ症について <sup>*2</sup>	更新
3月30日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況について	更新

<sup>\*1</sup> : カビに関する16事例を追加し更新しました。

<sup>\*2</sup> :2007年1月に大阪府において、犬のブルセラ症に関する報道があり、その後問い合わせが多かったため、内容を更新しました。

【 感染症・疫学情報課 】

## パネル展示・体験コーナー

- 微生物部門の業務紹介
- 食品の検査を体験してみよう
- 食品中の農薬の検査あれこれ
- いわゆる健康食品&違法ドラッグについて
- 水環境について
- 家庭用品の安全性
- 室内環境について
- 知ってびっくりあなたの健康年齢

## ミニセミナー

- 10:00- 最近の食品苦情事例について
- 10:30- 食中毒について
- 13:30- おいしい水
- 14:00- 鳥及び新型インフルエンザ  
対策について

平成19年6月8日(金)  
9:30~15:30

### 横浜市衛生研究所

〒235-0012

横浜市磯子区滝頭1-2-17

TEL 045-754-9800

FAX 045-754-2210

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

アクセス (お車でのご来場はご遠慮下さい)



- JR根岸線  
根岸駅から  
市バス135系統  
脳血管医療センター  
下車 徒歩2分
- 市営地下鉄  
吉野町駅から  
市バス156または  
113系統  
根岸橋下車  
徒歩10分

〜安心・安全なくらし〜

# 第14回

# 究

# 衛

# 所

# 生

# 展

# 研

入場無料